

先天性小眼球症のサラブレッド子馬における画像診断所見

大塚健史¹⁾ 佐々木直樹^{1)†} 山田一孝¹⁾ 神尾恭平²⁾古岡秀文²⁾ 吉田真郷³⁾ 山田明夫¹⁾

- 1) 帯広畜産大学臨床獣医学研究部門 (〒080-8555 帯広市稲田町西2線11)
- 2) 帯広畜産大学基礎獣医学研究部門 (〒080-8555 帯広市稲田町西2線11)
- 3) 日高地区農業共済組合西部支所 (〒059-2122 沙流郡日高町緑町130-1)

(2009年2月12日受付・2009年7月17日受理)

要 約

サラブレッド種の子馬に、出生時より両眼球の形成異常が認められた。超音波検査では、角膜および水晶体などの眼球構造が不明瞭であり、硝子体腔に等エコー像が観察された。Computed tomography (CT) 検査では、硝子体腔に高CT値を示す組織が散見された。肉眼的には水晶体欠損および瞳孔上の乳白色結節が確認された。組織学的検査により、水晶体、硝子体、脈絡膜、網膜などの正常眼球組織の欠損と、軟骨や腺などの異所性組織形成が眼球内に確認された。以上のことから、超音波検査とCT検査は本症例の生前診断に有用であった。

——キーワード：子馬，小眼球，CT検査。

----- 日獣会誌 62, 871～874 (2009)

† 連絡責任者：佐々木直樹 (帯広畜産大学臨床獣医学研究部門大動物外科学研究室)

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11 ☎・FAX 0155-49-5378 E-mail : naoki@obihiro.ac.jp